

第3回原子力安全検証委員会で頂いた 意見への対応状況について

平成25年4月26日

関西電力株式会社

第3回 原子力安全検証委員会で頂いた意見への対応状況 (1/2)

テーマ区分： 原子力発電の自主的・継続的な安全への取組状況について

番号	意見の内容	対応状況
1	<p>【原子力安全推進協会(JANSI)について】</p> <p>原子力安全推進協会(JANSI)が「前身の日本原子力技術協会(JANTI)と代わり映えしない」と受け取られないためにも、新組織としてどのような成果を出していくのかをアピールしていく必要がある。</p>	<p>JANSIは、JANTIの知見・ノウハウを活用しつつ、JANSI代表が電気事業者の意向に左右されずに各社の社長に直接提言する権限を持つことや、国内外の安全性向上に関する最新知見を収集・分析して、電気事業者から独立した立場で技術評価を行う等、実効性・独立性を高める機能を充実しております。</p> <p>JANSI設立時には、電気事業連合会会長である当社社長が、それぞれの立場で、JANSIの評価や提言・勧告等を尊重し、真摯に受け止める旨を宣言しており、今後、当社としても、社長の強い決意と覚悟の下で、安全性向上に向けた取組みを確実に実行してまいります。</p> <p>また、事業者社長会議や理事会等を通じて、JANSIとのコミュニケーションを深めて活動内容を充実させるとともに、今後活動の成果を積極的に公表してまいります。</p>
2	<p>【原子力安全推進協会(JANSI)について】</p> <p>事業者の自主規制と国の規制というダブルチェックが働いていることが、国民の信頼を高めると思う。そのため、独立組織として設立した原子力安全推進協会(JANSI)が強い権限を持ち、JANSIから指摘されたことを事業者はきっちり受け止めていくということをアピールしていくことが大事である。</p>	<p>現在、取り組んでいる安全対策につきましては、自主的な取組みが分かるように整理して実施状況を共有しております。一方、現在、国で規制基準の見直し検討が進められており、安全対策の多くが規制要求となる見込みではありますが、新規制基準施行後においても、規制要求に対して何が求められていて、何が事業者の自主的な取組みなのかを共有した上で、さらなる安全性向上に取り組んでまいります。</p>
3	<p>【安全性向上対策のチェック&レビュー】</p> <p>前回の委員会での指摘に基づき、監査側が安全対策を規制の枠組みと自主的な取組みとに整理しているが、このような整理は対策を実施する側が実施して、常に皆で共有し、個々の安全対策をどういう位置づけで進めているのか分かることが大事で、それが、自主的な活動につながると思う。</p>	<p>現在は福島第一発電所事故について公開された事故報告書などからの情報の収集と検討を行っており、今後も適宜の対応を図ってまいります。</p> <p>また、他産業の事故・トラブル事例に関しても参考とすべき情報の収集や検討を行ってまいります。</p>
4	<p>【安全性向上対策のチェック&レビュー】</p> <p>福島第一発電所の事故とは違う図式で起こる事故、例えば、他産業でのトラブル(笹子トンネル事故、ボーイング787のトラブル)などから学びとることも必要である。</p>	<p>現在は福島第一発電所事故について公開された事故報告書などからの情報の収集と検討を行っており、今後も適宜の対応を図ってまいります。</p> <p>また、他産業の事故・トラブル事例に関しても参考とすべき情報の収集や検討を行ってまいります。</p>

第3回 原子力安全検証委員会で頂いた意見への対応状況 (2/2)

テーマ区分：安全文化醸成活動

番号	意見の内容	対応状況
5	<p>【安全文化評価について】</p> <p>安全文化評価の視点⑬をアクシデントマネジメントの主旨が入るように「トラブルの未然防止」から「更なる安全性、信頼性の向上」に見直しているが、具体的に何を評価するのかがイメージできるような表現について、今年度評価も踏まえて再検討が必要である。</p>	<p>平成24年度の安全文化評価を踏まえ、評価の視点、あるべき姿等の内容について改善すべき事項を抽出し、継続的に改善を図っていくこととしており、ご指摘の点につきましても、具体的に何を評価するのかがイメージできる表現となるよう、平成25年度の計画策定時に検討してまいります。</p>
6	<p>【安全文化評価について】</p> <p>安全文化評価の視点⑬のあるべき姿の例にスローガンである「規制の枠組みにとどまることなく、世界最高水準の安全性を目指して」が出てくるのは、違和感がある。あるべき姿の例なので、具体的な例が入るべきである。</p>	
7	<p>【安全文化評価について】</p> <p>安全文化評価の「あるべき姿の例」で「分かりやすく伝えることができるかを常に追求している」という文言について、「実施または試行している」などの文言を追加し、また、実際に行動している事例を基にして、より提供すべき情報や方法論を追求しているニュアンスがあれば、より実態に則したものになる。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、当該のあるべき姿の例につきましては、「原子力安全のリスクやその対応について、社会(地元等)に分かりやすく伝えるべく行動し、また、どうすれば分かりやすく伝えることができるかを常に追求している」に見直しております。</p>